

## 産婦人科新任部長のご紹介



第2産婦人科部長 たしま きみひさ 田嶋 公久

卒業年次／平成3年  
資格／日本産婦人科学会専門医、検診マンモグラフィ読影医師、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡の技術認定医、日本受精着床学会評議員、福井大学医学部臨床准教授

連携医療機関をはじめ各診療科、コメディカルの方々には、平素より大変お世話になり、有難うございます。腹腔鏡・子宮鏡を用いた体への負担の小さい手術(低侵襲手術)に取り組んでおります。今後とも、よろしくお願いたします。

## 地域医療連携交流会の開催報告

11月24日(火)に鯖江シティーホテルにおいて「地域医療連携交流会」を開催いたしました。

広瀬病院院長 広瀬真紀先生と福田胃腸科外科 福田和則先生に座長をお務めいただき、①『頸動脈疾患の外科治療について』脳神経外科新任の高木康志部長より、②『新型インフルエンザ(H1N1)の最新知見と対応について』呼吸器科、赤井雅也部長より話題提供させていただきました。院内外の約60名の先生方にご参加いただき、先生方のおかげをもって盛會に会を終了することができました。

最後まで、多くの先生方にご参加いただきましたこと心よりうれしく思います。

次回以降も更に充実させた内容で、先生方に満足のいく話題提供が出来るよう努力してまいります。今後も顔の見える連携を趣旨としたこの会にご参加お待ちしております。



## 病院機能評価で上位にランクインしました

1月10日付け日本経済新聞の「実力病院 日経・日経メディカル調査」において、当院が日本医療機能評価機構が認定した1,159病院中31位にランクインしました。北陸地方では当院が最上位となりました。

病院機能評価では、病院の組織的基盤と運営・管理及び看護の質、利用者の安全の確保、利用者のプライバシーと人権の尊重、地域における役割の遂行などとなり、医療機関にとっては厳しい視点からの審査となっています。当院では、認定を受けて満足するだけでなく、今後もより一層医療の質の向上をめざし、努力してまいります。

順位	病院名	県名	点数
1	福井赤十字病院	福井	75.8
2	芳珠記念病院	石川	75.4
2	南砺市民病院	富山	75.4
4	金沢医科大学病院	石川	75.1
5	福井県立病院	福井	74.9
6	八尾総合病院	富山	74.1
7	金沢大学附属病院	石川	73.7
8	富山県済生会富山病院	富山	73.0

1月10日付け日本経済新聞 北陸3県のみ抜粋

# Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院連携通信

パートナー vol.033



## Topics トピックス

### 新年に向けて

先生方には、良き新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。旧年中は当院の診療にご支援をいただき、ありがとうございました。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、昨年は幸いな事に、当院から赤十字災害救護班の出動はありませんでした。今年も大きな災害や事故のない1年となりますよう、祈念したいと思います。

また、昨年は新型インフルエンザが上陸して大流行し、一方で「政権交代」が起り、大変忙しい1年でした。今年には変革の第一歩が踏み出され、心穏やかに過ごせる事を願います。特に、景気の回復と診療報酬プラス改定の中味に期待しています。

今年、病院は中長期計画を見直す年を迎えました。計画には、「県内一の地域医療支援病院」、「県内一のがん診療連携拠点病院」を目標に掲げ、重点項目として、①病院医療と在宅医療の協働推進、②かかりつけ医との密な連携強化、③救急医療の充実、④診療機能の高度化、⑤職員の質の向上、を取上げます。赤十字のシンボルマークに加えて、「結ぶきずな、地域とともに」の標語とマークも拡げていきます。

最後に、今年1年、連携医の先生方のご多幸をお祈り申し上げます。



福井赤十字病院 院長 野口正人

### 福井赤十字病院

#### 理念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

#### 基本方針

- 患者様の権利と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救護や救援活動を行います。

### 地域医療連携課

受付時間／平日 8:00~18:30  
土曜 8:30~12:30  
TEL 0776-36-4110(直通)  
FAX 0776-36-0240(専用)

## 福井赤十字病院

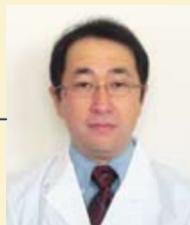
http://www.fukui-med.jrc.or.jp  
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第33号発行  
平成22年1月  
福井赤十字病院



# 福井赤十字病院 脳卒中センター・ 脳神経外科の紹介

脳卒中センター長・  
脳神経外科部長  
高木康志



平成21年10月1日より、脳神経外科部長、脳卒中センター長として京都大学から着任いたしました高木康志です。私にとって福井赤十字病院は、17年ぶりとなります。前回、勤務したときは旧病棟で、まだ国道沿いにも店が少なく、寂しい気がしましたが、今回はお店も非常に増えてにぎやかに便利になっている気がしています。また病院も新病棟になり見違えたようになっています。さて、ここでは、脳卒中センターおよび脳神経外科の扱う疾患について紹介します。

## 《 福井赤十字病院 脳卒中センターについて 》

福井赤十字病院に脳卒中センターが開設されてから、今年で3年になります。福井市初のSCU(Stroke Care Unit: 脳卒中急性期を専門に診る病棟)を備えたセンターとして、地域の皆様や病院スタッフの方々に支えられ、現在も非常にたくさんの脳卒中急性期の患者さんが入院されます。私たちのセンターの特色としては、脳神経外科、神経内科、看護師、リハビリテーションスタッフ、地域医療連携課スタッフのコラボレーションが緊密であることが挙げられます。

患者さんが入院されると、その当日にSCUカンファレンスが各スタッフ参加の上で行われます。このカンファレンスで、各患者さんに状況に合わせた入院計画が作られます。入院後も適宜、SCUスタッフおよび患者さんのご家族を交えたカンファレンスが行われ、退院後の指導や転院についての相談を行います。このようなきめ細かな対応が私たちのセンターの自慢できる点です。

また脳卒中センターでは毎日、SCU当直医が当直しています。この当直医が24時間、SCUに入院中の患者さんと外来にお越しになる患者さんに対応しています。SCU当直医は救急隊や、開業医の先生方からも直接ご連絡が

いただけるように、ダイレクトコールのPHSを常に携帯しています。患者さんも救急隊や開業医の先生方に、脳卒中を疑う場合は「福井赤十字病院のSCUに連絡を取ってください」とおたずね下さい。

さて、脳卒中センターで扱う疾患にはどのようなものがあるでしょうか。主な脳血管障害としては、脳梗塞とくも膜下出血、脳内出血があります。

脳梗塞は脳を栄養している血管が、心臓の不整脈や、動脈硬化が原因で閉塞して起こります。症状としては、手足の麻痺や言語障害、感覚障害が主なものとなります。脳梗塞に対しては、最近、日本でも血栓溶解療法が簡単に行われるようになりました。発症後、3時間以内に治療が始めることができたなら、この組織由来プラスミノゲンアクチベーター(t-PA)という薬が使うことができます。この薬の使用件数で当センターは日本有数の経験を蓄積しています。これまでに約60件の方々に使用し、良好な成績を収めています。ただし、この薬を使うことができるのは症状が発現してから3時間以内です。上に述べたような症状が出た場合にはすぐに、「日赤の脳卒中センター」にご連絡下さい。

また、もう一つ非常に怖い病気に、くも膜下出血があります。くも膜下出血は主に脳動脈瘤が破裂して起こるもので、突然の非常に激しい頭痛や意識障害が特徴です。破裂した瘤は24時間以内に再破裂するリスクが高く、緊急の治療が必要です。脳出血は、脳に分布する細い血管が破綻することが多く、やはり突然に発症します。出血をきたした場合は、血圧を低く保ったり、生命の危険があるときには緊急手術を行ったりします。

このように、脳卒中センターでは、緊急の対応を要する脳神経疾患を治療しています。これからも、お気軽にご相談下さい。(脳卒中センター直通 PHS 0776-36-0083)



図1

図1はくも膜下出血を起こした患者さんの頭部CT(左上)です。白い部分が出血です。このような患者さんはすぐに脳血管撮影が行われます。図1の右上の図がその結果です。矢印が脳動脈瘤です。この患者さんはこの後、頭を切開せずに血管内手術を行い元気にられました。下の図で、瘤が閉塞しているのがわかると思います(矢印)。私たちのセンターでは、このような血管内手術とともに、直接に動脈瘤に到達して行うクリッピング術も24時間態勢で行っています。

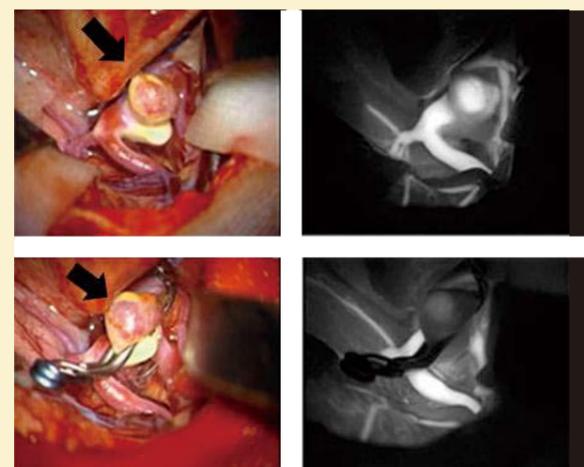


図2

図2は、手術中の脳動脈瘤です。丸くふくらんだ部分が動脈瘤です(矢印)。右は蛍光物質を注射して動脈瘤の状態を確認しているところです。一番下が、クリップをかけた後です。動脈瘤内に血流がないことを蛍光血管撮影で確認しています。

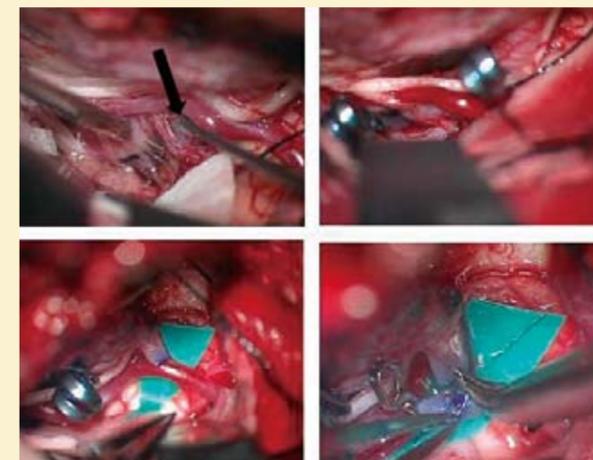


図3

また、次の写真(図3)は血管が裂けてくも膜下出血が起こった例で解離性脳動脈瘤といいます。上の真ん中の矢印が血管の裂けた部分です。このような場合は、血管の裂けた部分(真ん中左矢印の黒い部分)にクリップをかけて閉鎖し(真ん中右)、血流が少なくなった部位にはバイパスを追加します(下の写真)。このように脳卒中センターでは脳卒中急性期の患者さんの内科的治療及び外科的治療を行っています。

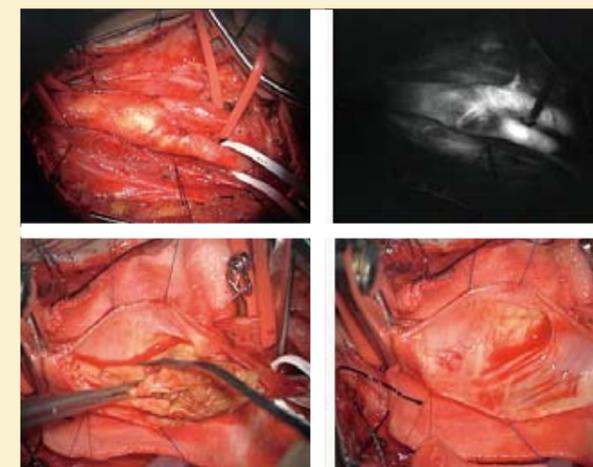


図4

図4は、頸動脈内膜剥離術の様子です。頸動脈を狭窄させ脳梗塞の原因となっているプラークを摘出しています(左下)。頸動脈狭窄は狭窄の程度が7割を超えると治療の必要があることが分かっています。全身麻酔が難しい患者さんや手術が難しい場合はステント留置術といい金属の筒を狭窄した部分に留置します。また、頸動脈が閉塞している場合には、脳血流検査を行い、血流が悪いときはバイパス手術を行います。